

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

5 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	91	69	57	55	37	56	4.8	4.7	6.5	21.1	7.5
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	89	46.7	42.6	52.2	49.5	50.6	20.5	5.0	11.3	9.2	4.5
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
	9月6日 大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6
2 年	学校	70	52.4	57.2	62.3	64.9	48.1	7.7	3.3	8.8	2.6	5.2
	大阪市	—	55.9	52.3	60.7	55.7	49.8	6.9	5.9	9.1	5.9	5.4
	1月10日 大阪府	—	57.0	53.4	61.8	56.6	51.3	7.1	6.0	9.2	6.3	5.3
1 年	学校	77	50.5	—	54.9	—	54.0	6.8	—	5.1	—	9.2
	大阪市	—	54.8	—	60.2	—	61.1	6.9	—	6.5	—	6.6
	1月10日 大阪府	—	56.2	—	61.3	—	62.0	6.7	—	6.7	—	7.2

※ 2年生の社会はB問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 1年生については、国語・数学・英語のみ実施

3 大阪府中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	87	56.9	56.1	54.9	52.0	56.0
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

4 大阪市英語力調査（英検IBA）

学年 実施月日		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
3 年	学校	84	58.5	49.3	50.5	42.9	—	—
10月29日	大阪市	—	62.6	52.2	53.2	52.8	—	—
2 年	学校	71	71.4	56.2	62.1	—	69.0	—
10月29日	大阪市	—	71.2	58.5	65.0	—	69.2	—
1 年	学校	78	57.7	56.7	62.8	—	—	82.1
10月29日	大阪市	—	56.5	53.2	63.3	—	—	79.4

5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	69	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	28.75	23.44	34.78	47.61	77.64	7.94	186.22	21.08	37.06
	大阪市	29.05	27.74	41.48	52.14	85.66	8.06	192.58	20.29	41.72
	全 国	28.84	27.36	43.44	52.24	86.06	7.99	195.62	20.55	42.32
2 年 女 子	学校	24.97	21.65	38.84	44.13	52.06	8.58	170.16	15.22	48.96
	大阪市	24.06	23.91	44.95	47.47	59.88	8.89	168.48	12.96	50.14
	全 国	23.87	23.87	46.22	47.37	59.87	8.78	170.26	12.98	50.61

平成30年度 市岡東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

【成果と課題】

男女ともに50m走、ハンドボール投げで大阪市平均、全国平均を上回った。特に、女子のハンドボール投げは全国平均を2.24mも上回った。女子ではこの他にも握力で大阪市平均、全国平均を上回り、立ち幅とびで大阪市平均は上回ったが全国平均ではわずかに下回った。その他の種目では、男女ともに大阪市平均、全国平均を下回った。特に、反復横とびや20mシャトルランといった体力が必要とされる種目や上体起こしや長座体前屈といった柔軟性が必要な種目に課題がある。

生徒質問紙調査の結果では、健康には運動、食事、睡眠が大切だと考えている生徒は全国平均よりも高いが、男子で運動が嫌いと回答した生徒が10.8%と全国平均のおよそ3倍、朝食を食べない日が多い生徒が11%と全国平均のおよそ2倍となっている。睡眠時間に関しては、全国平均、大阪市平均よりも長くとれている生徒が多い。

【今後に向けて】

男子の50m走、ハンドボール投げ、および、女子の50m走、ハンドボール投げ、握力で大阪市平均、全国平均を上回っているため今後もこれらを維持していきたい。

男女ともに柔軟性を高め、体力を向上させるために授業の開始時にランニング、体操、筋力トレーニングを取り入れている。しかし、反復横とびや20mシャトルランといった体力が必要とされる種目や上体起こしや長座体前屈といった柔軟性が必要な種目に課題があるので、授業内での運動量の増加や強度を工夫する必要がある。

基本的な生活習慣が身についている生徒の数は増加しているが、保健体育の授業を通じて食生活、睡眠、栄養の大切さ等、必要な知識を習得させていく必要がある。